

日・メコン交流年2009 認定事業

文化継承が育む平和な社会

# WORLD PEACE ART EXHIBITION 2009

## 第17回 8.15国際平和美術展 in カンボジア



The International Peace Art Association Press

# 国際平和美術会々報

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 国際平和美術会々報ビル TEL: 03-6553-0099 FAX: 03-6553-0010



会期: 2009年11月18日(水)～21日(土) ■主催: I・P・A実行委員会  
 会場: IPARC (I・P・A EXHIBITION HALL) ■後援: 外務省、在日本カンボジア王国大使館、京都市、広島市、長崎市、社団法人日本ユネスコ協会連盟  
 ■運営: 株式会社 世界文藝社 ■協力: カンボジア王立芸術大学

Vol.52 December 2009  
 展覧会終了報告書



## カンボジア王国の芸術文化の未来を担う 新たなランドマーク IPARC (I・P・A EXHIBITION HALL) オープン!!

～Message～



待望のIPARC (I・P・A Exhibition Hall) がオープンしました。王立芸術大学、カンボジア王国文化芸術者は日本の芸術家の皆様の多大なるご支援に深く感謝申し上げますとともに、WORLD PEACE ART EXHIBITION 2009が大幅のうちに開催しましたことを報告いたします。この美術館は、開業や国籍を問わず、すべての芸術家のための、新たな創作発表の場として、活用され、さらには、芸術と文化が出会う場所として、また教育の中心として重要な役割を果たすことと見られ、今後の展開にご期待ください。



カンボジア王立芸術大学  
 ボン・ソグヴァット大学長

事業日程

- ～ブロンペン～
  - IPARC特別内覧会
  - ワークショップ
  - 落成式典＆オープニングセレモニー
  - レセプションパーティ
- ～シェムリアップ～
  - 中学校訪問平和交流事業
  - 井戸開き式
  - アンコール遺跡群訪問

11月18日、外務省認定「日・メコン交流年2009」事業、WORLD PEACE ART EXHIBITION 2009 (第17回) 8.15国際平和美術展がIPARCで開催されました。IPARCは、I・P・A実行委員会と国際平和美術展を通じ、日本の芸術家からカンボジア王立芸術大学敷地内に開かれたカンボジア史上最大規模の企画展示施設で、オープニングセレモニーには、カンボジア王国副首相ノク・アン氏をはじめ、王国政府関係者、芸術大学学生ほか総勢500名のゲストが駆けつけ、その様子はメディアで生中継で報道されました。こけら落とし展となった。

19日からの一般公開では、前日のメディア報道も手伝い、朝から入場を今かと待ちわびる人々の長蛇の列が並びました。会場には一般客のほか、学生達が大量集まり、手持ちのカメラで撮影したり、メッセージを熱心に読みメモを取る姿も見られ、平和がもたらされた王国の未来を担う青年たちの活動を与えています。



▲日本アーティストを出迎える現地の学生達



▲盛大な歓迎を受ける



▲美術館内に足を踏み入れた日本のアーティスト達



▲IPARC (I・P・A EXHIBITION HALL) 外観



# クメールクラシックとモダンが融合した企画美術館

11月18日午後、心地よい

展開催への感謝が一人ひとりから伝わってくるようでした。赤絨毯の敷かれた玄関から一歩足を踏み入れると、まず二行を大理石の床にあ

隠せない大学生連が、日本から訪れたアーティスト達を取り囲みました。作品に関する質問や興味が絶えず、あちこちで展覧作家と記念撮影をする姿も見られました。アーティストも熱心な学生達への対応に忙しい内覧となりましたが、熱気に包まれた会場に時折りそよぐ偏西風は、悠々のアンコール王朝時代と変わらぬこの国独自の優雅さを物語るようでした。

I・P・A 実行委員会がこれまで17年間各国で展覧会を開催したノウハウと経験を元に、現地の気候と雰囲気とマッチしたアーティストが輝ける舞台となる美術館が誕生しました。

王宮に隣接し、国立博物館を向かいに臨む絶好の立地にあるこの企画美術館は、開館前より新たなランドマークとして、カンボジア市民から大変注目を集めてきました。

完成した美術館には、運をモチーフにゴールドで装飾が施されたメイン扉、二度も釘が打たれていない白亜の壁、今展の工芸作品一つひとつのサイズに合わせたオーダーメイドのまっさらな工芸台、作品を彩る多数のライト、フランス統治時代の名残として多くのヴィラで見られる天井のファンなど、鑑賞のための充実した設備が整っています。

入り口には内戦の後遺症が残る方、ハンディキャップのある方にもスムーズに会場に入っていくことができるようスロープが設置され、屋上には枝振りのいい木が木陰を作るテラスなど、世界中から様々な人々を迎えるための快適な空間づくりが成されています。

正面玄関にある二本のポールには、カンボジア王国と日本の国旗、そしてこの美術館「IPARC」の旗がはためき、入り口には、寄贈に尽力した日本のアーティストの名前が金のプレートにアルファベットで刻まれています。

一人ひとりの名前とともに、日本の支援が、企画美術館という新たな形でこの地に確かに残っていくこと

でしょう。



▲IPARCの前に押し寄せた多くの現地の人々



▲作品を興味深く鑑賞するカンボジアの学生達



▲現地の王立大学生の歓迎を受けIPARCに入場する日本のアーティスト達



▲日本のアーティストの名前が刻まれたプレート



▲王立芸術大学副学長ヴァーモリン教授



▲美術館入り口の床にあしらわれたロゴマークにこめられた思いを自ら紹介するI・P・A実行委員長 備田



▲美術館入り口は来場者で大混雑

# 平和を願う想いを共有 したオープニング式典

## オープニング式典

11月18日の夕方、カンボジア王国政府主催による今展のオープニング式典が開催されました。IPARCに隣接する広場に、特設ステージが組まれ、大勢の学生や現地の人たちも参加できるよう、500席以上の客席が用意されました。立ち見まで出るほど多くの人が集まり、来賓が会場に訪れる度に大きな拍手が起きました。

開始時間の16時を少し過ぎたころ、国家警察に先導されたカンボジア王国副首相ソクアン氏が到着すると、会場は一層大きな拍手に包まれ、歓声に迎えられました。主催者代表、機田と共に日本人アーティストが待つ特設ステージへと続く赤絨毯の上を、一歩一歩進んで来られ、ソクアン氏と機田と日本人アーティストのはか、カンボジア王国政府より40名を超え、来賓が席を並べ、美術館の設立を祝う、国を挙げた式典が始まりました。

最初に、カンボジア王国の「アプサラスの踊り」で歓迎の舞が行なわれ、次に日本の国歌「君が代」とカンボジア国歌「王国（Kingdom of Cambodia）」がそれぞれ斉唱されました。次に、主催者代表である機田がこの展覧会は芸術という国境のない視点から、1993年より世界各国で開催し、今回で国内外での展示開催を数えると34回目の開催になります。今展を通じて、カンボジアの今後の若い世代、またカンボジア

の皆様の文化向上を含め、美しいもの、平和を愛する心をより一層育んでいきたい。願いから美術館を建設しました」と今展の意義を述べました。続いて、文化大臣ヒム・テム氏が挨拶を述べ、最後にカンボジア王国副首相ソクアン氏が「芸術を通じた平和を希求する」と開催する今展には、大変大きな共感を持っていました。そして、ソクアン氏にこれまでなかった美術館を日本のアーティストの皆様が設立してくださったことを、カンボジア王国を代表して、心より感謝を申し上げます」と謝辞を述べ、感謝状を一人ひとりに手渡しました。

カンボジアと日本が遠く離れた場所にあっても、今後、同じ平和を願う想いで、IPARCという友好の架け橋が繋がったことを実感しました。

## テーブルカット

11月18日夕方、オープニング式典に参列したカンボジア王国副首相ソクアン氏をはじめ、カンボジア政府関係者や、日本人アーティスト、IPARCへ続く道を、大勢の学生たちが歓声を上げ、中、歩いて来ました。

夕日を臨む美術館入口では、王国政府関係者と日本人アーティストと、地元の名の子供たちによる力強い和太鼓の演奏が出現し、入場を待ちわびる人々で、道は埋め尽くされていきました。入山を掻き分け、入口に用意されたテーブルに、主催者代表機田英俊、王立芸術省文化大臣ヒム・テム氏、カンボジアユネスコ会長神内照夫氏、在カンボジア日本大使館特命全權大使黒木雅文氏、カンボジア王国の副首相ソクアン氏がテーブルを切り落としました。

子供達に向けて、題材の贈呈が行なわれました。また、日本の美術を紹介するため本展の図録、弊社出版書籍「日本美術の創生」を文化大臣に贈呈、乾杯の後、UNESCOに贈呈、アプサラスの宮廷舞踊、アプサラスダンスが披露されると、その美しい舞に目を奪われ、出席者は皆食事の手を休めるほどでした。

カンボジア料理を中心としたディナーを楽しみながら、和気あいあいとした雰囲気の中、パーティーは夜遅くまで続き、渡航アーティスト間の親交もさらに深まりました。



▲左からカンボジア日本大使館 参事官大庭 崇木 義文氏 ▲カンボジアユネスコ会長 神内 照夫氏 ▲世界文藝社 代表取締役 機田 英俊 ▲王立芸術省文化大臣 ヒム・テム氏 ▲カンボジア王国副首相 ソクアン氏



▲そうそうたる顔ぶれが参列したオープニング式典



11月18日、午後一時半より、メコン川とトンレサップ川の合流地点に行き高級ホテル「カンボジアアーナ」にて、盛大なレセプションパーティーが行なわれました。

開放感あるテラス会場は神秘的にライトアップされ、川からの心地よい風が吹き、さわやかなパーティーが始まり、ボンソングと王立芸術大学、ヒム・テム文化大臣の臨席のもと、日本からカンボジアの



▲レセプション会場の様子



▲テーブルカットの様子(カンボジアユネスコ会長 神内氏)

## 心の交流が実現したワークショップ



前田 壽枝子 先生 中村 浩美 先生 齊本 丘重 先生 小川 薫王 先生  
山内 清香 先生 村田 佳代子 先生 増本 和子 先生

特別内覧会中には、美術館正面にて渡航作家7名によるワークショップが行なわれ、カンボジアらしく、まぶしい太陽のスポットライトを浴びた屋外でのワークショップでは、学生達の真剣なまなざしを受けたアーティストが、一緒に創作活動を行なうことで、交流が実現しました。

ほとんどの交流が実現しました。アーティスト一人ひとりも様々な工夫を凝らし、短時間でも、学生達が簡単に楽しく参加できるような、制作キットやプログラムを日本から持ち込まれ、各テーブルは二重三重の人の輪で囲まれました。

増本和子先生は「丁寧に時間を掛けて戸塚刺繍を、齊本丘重先生は、日本の団扇を水墨画材で、また、小川薫王先生、山内清香先生は日本の伝統芸術・書道を披露し、前田壽枝子先生の押花ワークショップでは、男子学生がぐりとテープルに並び愛らしい日本の花を愛でました。また、中村浩美先生のワイヤーワークでは、本物のパロゾ、真珠の美しさに目を輝かせる女子学生が集まり、国際平和美術展に初回から出展されている評議員、村田佳代子先生のテーブルでは、これまでの各国での経験を活かし、マール（浮き流し）絵画の制作が行なわれました。

どのテーブルも、順番待ちの列ができ、アーティストの一言ひとこと聞き漏らさないよう真剣なまなざしで制作に参加する学生に溢れました。



11/20

### 現地の中学校を日本のアーティストが訪問

11月20日、シムリアアップにあるサンボンナピアップ中学校へ日本から持参した画材と優れた日本の芸術を伝えるためアーティスト達が訪問しました。この中学校には約700名の生徒が在籍していますが、校舎が小さいため、午前と午後の2部に分かれて授業を受けなくてはなりません。中には10キロ以上離れた所から通っている生徒もいます。

中学校には絵の具やクレヨンといった画材がありません。中学生の歌による歓迎



▲中学生の歌による歓迎



▲歓迎と感謝の意を送る学生達



▲サンボンナピアップ中学校を訪問



▲日本からのプレゼント「風船」を飛ばす子供達



▲書道ワークショップの様子



▲青空学級の授業風景

もやつとなので、絵や工作をするにはほとんどの道具が不足しています。日本から持参した画材でカンボジアの子供達が作品を作る。芸術を通して日本とカンボジアに平和の橋が架かったことを実感できる学校訪問になりました。



▲日本のアーティストから寄贈された井戸



▲井戸を大切に使うと話し渡部 冠先生

中学校の近くにあるサン、ベイ村には井戸がなく、1時間聞かなくてはならないため、子供達にも大きな負担になっていました。そこで、アーティスト達は村を訪問し、一人ひとりがそれぞれ井戸を寄付しました。この井戸は深く掘られているため、比素などの心配もまったくありません。井戸ができたおかげで子供達の負担も減り、勉強をさせることができると、村長は日本アーティストに感謝を表しました。



▲寄付された井戸に感謝の意を表す村長

11/20

### 命の源となる井戸を寄贈

11/20

### クメール王朝最大の遺跡 世界遺産アンコール・ワットを訪問



11月20日午後、9世紀より600年以上続いたクメール王朝遺跡、アンコール・ワットを訪問しました。アンコール・ワットはカンボジア王国の国旗の中央にも描かれており、見る者を虜にする美しい世界遺産です。

アンコール・ワットのある街シムリアアップもまだ発展途上で、凸凹に荒れた道を、密林の奥へ進んで行くと、突如として雄大な建造物が目に飛び込んできます。東西1500メートル、南北も300メートル、周囲は幅200メートルの堀で囲まれ、気温が30℃以上ある中でも、遺跡内はひんやりとしています。独特の雰囲気を感じます。参加者は着いた途端、遺跡内で現地ガイドからレリーフ（浮き彫り彫刻）や仏像の説明を受けると、改めてクメール文化の素晴らしさに感心していました。



# WORLD PEACE ART EXHIBITION 2009 in Cambodia

～カンボジアで出逢った笑顔の数々を紹介します～

